トップニュース

若者へのご縁づくり

若者へのご縁づくりとして、宗派は9月28、29日、北海道小樽市・小樽別院で現代版寺子屋「スクール・ナーランダ Vol.8 北海道」を開催した。「地球という船の上で一多様な乗組員どうしの共生」をテーマに、地元北海道を中心に参加した若者たちが、地球温暖化や相次ぐ自然災害、各地で止まることのない戦争・紛争など、危機に直面している「地球という船」をどう修復できるのか、講義やグループディスカッションを通して考え、学びを深めた(写真左)。　(8面に関連記事)

現代版寺子屋 スクール・ナーランダ

「今日の学びを生かしたい」

スクール・ナーランダ　「お寺で学ぶ、今と未来を生きる智慧」と銘打ち、仏教をはじめ、科学や芸術、哲学などを横断的に学び、双方向の対話や体験を通して、不確かな時代を生きる「心の軸」を考えていく、10~20代を対象としたご縁づくり企画。これまで京都をはじめ、東京、富山、佐賀、山口、名古屋で開催している。

28日は「多様な人たち同士の共生」を学ぼうと、アイヌ語研究者の千葉大学名誉教授・中川裕さん、イラン出身の俳優で国際人権NGO「すべての子どもに家庭を」親善大使のサヘル・ローズさん、本願寺派総合研究所副所長の寺本知正さんの3人が講師を務めた。

アイヌ文化を取り上げた漫画『ゴールデンカムイ』でアイヌ語を監修した中川さんは「アイヌ語の『カムイ』は、動植物や自然現象、私たち人間も含め、身の回りにあるすべてを示し、そのすべてに魂が宿るという言葉。アイヌの人たちは、自然だけでなく『カムイ』すべてと共生していく。それがアイヌの精神文化。自分を取り巻くすべてのものを人間と等しく見て、それらと関係を保つことで幸せになるという思想を持っている」と、アイヌの価値観や生活について語った。

ローズさんは幼少期を過ごしたイランでの戦争体験を振り返り、「中東での戦争や紛争は、字が読めない子どもたちに大人が間違った正義を伝えて洗脳していく。そうして少年兵が生まれる。私も一歩違えば銃を握っていたかもしれない。そうならなかったのは正しい教育を受ける機会があったから」と教育の大切さを訴えた。そして、「私たちは無自覚のうちに戦争に加担しているかもしれない。同じ地球人としての視点で、戦争の背景や現実を知ってもらいたい」と呼びかけた(写真上)。

寺本さんは、宗教の視点から、異文化の底辺に流れる共通点などを語った。また、講師3人による鼎談でもアイヌの精神文化と仏教との共通性を探り、「他の命をいただかずには生きていけないのが私たち人間。そこを見つめていかれたのが親鸞聖人」と話した。

参加者はグループディスカッションで意見交換。「サヘルさんが『外国人が』『日本人が』と主語を大きく捉えず、『私』『あなた』と小さくすることで、問題を身近に感じることができると教えてくださった。戦争などもそうやって捉えるべきだと思う」「アイヌの価値観では家族も友達も布団も全部感謝の対象というのは、私たちも見習うべき」などと若者たちが語り合った。

29日は「野生と人との共生」を学ぼうと、京都大学フィールド科学教育研究センター准教授の伊勢武史さん、芸術家の鴻池朋子さん、北海道清水町・真浄寺住職の永田弘彰さんが講師を務めた。また、アイヌ文様の切り絵体験(28日)、木製クラフトオルゴールづくり(29日)のワークショップも開かれた。

参加した八木花蓮さん(21)は「どんな苦悩も、見方を少し変えたり同じ経験をした者同士で支え合ったりすることで、心が和らいだり解決のヒントになることもあるかもしれないと感じた。身近に悩んでいる人がいたら、今日の学びを生かして支えてあげられたら」と話した。

小樽双葉高校2年の三影はつかさんは「お坊さんの話を聞き、どんな出会いにも意味があると感じた。みんなつながっているということは、環境問題や戦争なども、巡り巡って私たちの生活とつながっているのかもしれないと実感した。立ち止まって問題の背景を考えることの大切さを学んだ」と話した。

「ご縁づくり」活動推進会議の三島慶昭委員長は(63、鹿児島県鹿屋市・大円寺住職)は「今回の開催をもって全5連区でスクール・ナーランダを開催することができ、1つの区切りとなった。今後は、これまでのナーランダで得た経験やノウハウを広く共有していき、若者とのご縁づくりに生かしてもらえるようなはたらき掛けをしていきたい。ご縁づくりに悩む一般寺院が社会や若い世代とご縁をつなぐための一助になれば」と語った。

自己紹介し合う参加者たち

本願寺新報
hongwanji journal
10月20日(日曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

茶道 藪内家燕庵
京都市下京区西洞院正面下ル
http://www.yabunouchi-ennan.or.jp

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光 白光

高校3年生の秋の運動会での出来事だった。プログラムの掉尾を飾るクラス対抗400㍍リレーが始まる直前、メンバー4人のうちの1人がアクシデントに見舞われ、急きょクラス委員の私が代役で出場することになった。それまで一度もリレーのメンバーに選ばれたことなどなかった。

▼「大変なことになった」と頭が真っ白になっているうちにレースが始まった。そして、第3走者としてバトンを受けなければならないのに、緊張のあまり、受け渡し場所に立つことを忘れていた。結局、わがクラスは途中棄権。「気にするな」とクラスメートらは慰めてくれたが、バトンを渡す相手が見当たらず、ぼうぜんとコースにたたずんでいた第2走者の級友の悔しそうな表情が忘れられない。

▼演劇の世界などでは主役が思わぬ事故や病気などで降板を余儀なくされ、突然代役を務めることになった無名の役者が好演し、その後、スターの座に駆け上がることもある。これは単なる「幸運」などではなく、下積みの時代にも「いつかは主役を」と夢見て日夜精進努力を怠らなかった結果であろう。

▼陸上競技や走ることに特段の思い入れや経験もなく、主役の退場で、いきなり初めての体験といっていいリレーに出場することになった私が、失態を演じるのはある意味当然の帰結だったのだ。秋の運動会シーズンになると、不安と緊張でリレーのコースという〝舞台〟にさえ立てなかったかつてのほろ苦い経験がよみがえってくる。

法藏館
https://pub.hozokan.co.jp
法藏館文庫［新刊］
■根底からの問い直し　七〇歳代の西谷が語った講演の記録
仏教について　西谷啓治[著]　氣多雅子[解説]　一、三二〇円
■仏教における理想の境地へ
涅槃経入門　横超慧日[著]　下田正弘[解説]　一、三二〇円
■忘れられてきた、もう一つの「日本」の神々
陰陽道の神々 決定版　斎藤英喜[著]　一、六五〇円
新刊
植民地朝鮮の予言と民衆宗教　朴 海仙[著]　予言書『鄭鑑録』の基礎的考察と同書をモチーフに成立した民衆宗教の動向を分析し、様々な思惑が絡み合った植民地近代の位相を描く。　三、〇八〇円
禅に学ぶ精神分析——無意識と絶対　西村則昭[著]　東縛から自由への道を示す禅と、自己疎外からの解放を目指す精神分析の邂逅。哲学的精神分析家ラカンを導き手として本来的自己を探る。　三、五二〇円
近刊
〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

11月刊行予定
ラジオ法話　佛説阿彌陁經　土岐慶正著　定価2750円(税込)
極楽の光景や阿弥陀仏の加威力を、広く深く分かりやすく読み解いた好評の〝ラジオ法話〟を完全収録。「阿弥陀経」を理解する決定版として、初心者の方にもおすすめしたい一冊。
光を聞く(続)—どう生き　どう死ぬか—　松塚豊茂著　定価2750円(税込)
仏教概念と現実を突き合わせて、宗教一般・哲学的諸問題から信心・家庭・煩悩に至るまで全二十二項目に分類し、後世に残したい言葉を各々独立した短文で収録する。
勤式作法の変遷(昭和~令和)　堤 楽祐著　定価1210円(税込)
浄土真宗本願寺派の主に本山に関する勤式作法、そのほか一般寺院を含む宗門全体に関係する事柄について、昭和~令和にかけてどのような経過を経て、いつ頃どのような理由で変わったのかを解説する。
永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入　TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031

浄土真宗 文例集構成 全45文例
あったか年賀状文例集　松塚豊茂著　定価330円(税込)
おもしろ年賀、悲しみのなかの年賀、涙の年末ごあいさつ、真宗ご法義の味わいなど一貫ごとに浄土真宗の味わいあり。
日めくり万年カレンダー　直筆版『東井義雄』　書は人なり 心に滲みる言葉の数々
サイズ：縦24cm×横20cm　表紙2頁+本文31頁+台紙　定価1,100円(税込)
年末年始の授与品などにオススメ!!
❖東井義雄記念館 監修
大好評 第3弾
2025(R7)年 詩と花の絵のカレンダー
みすゞと四季　金子みすゞ(童謡詩人)×山田りえ(日本画家)
月ごとに味わう「みすゞの詩」と「花」。
実物見本お送りします
A4判オールカラー　中綴／見開きA3判　上部、詩と絵／下部、カレンダー
☆六曜入も お選び頂けます
定価150円(税込)
名入れ受け賜わり中!!
※ご購入価格5,000円以下の場合、送料は全国一律550円(税込)にて発送させていただきます。
方丈堂出版 https://hojodo.jp/　フリーダイヤル 0120-557-750　京都市伏見区日野不動講町38-25

探究社 https://www.tankyusha.co.jp
お寺と家庭をつなぐ法話の便り
よろこび　執筆者　前田 壽雄　浄土真宗の風景　三上 章道　斯波 徹真　浦上大伽の地　近松 真定　伝説とお念仏
報恩講
132円
※100部以上のご注文で割引有
故谷内正遠先生の木版画集「人じゃないよ」(探究社刊)より1月から12月の各月に合った版画を選び、卓上カレンダーを製作しました。
価格は1部900円(税込)となっておりますが、下欄の「ほのぼのカレンダー」とともにぜひお買い求めください。
お念仏のこころをはぐくむ 2025年(令和7年)版
ほのぼのカレンダー　A3判・タテ42cm×ヨコ29cm　1部150円
2025年(令和7年)版「ほのぼのカレンダー」を好評発売中です。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の絵はイラストレイターの諏訪間千晃先生、文字は故谷内正遠先生の版画文字となっております。
また、標語の解説書『正直者の光が』も1部110円で発売していますので、カレンダーとお買い求めください。
〒520-0027　大津市錦織2丁目9-30-101
TEL 077 (599) 4201　FAX 077 (599) 4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込】